



山梨学院大学

経営ナビゲーション

—ビジネス革新への航海図

No. 28-2

平成28年8月30日発行

山梨中央銀行
公務・地方創生室

甲府市丸の内 1-20-8

山梨中央銀行は、大学等の研究機関が有する知的資産とビジネスの現場とを結びつけ、企業経営のイノベーションや事業機会の創出を支援するリエゾン（橋渡し）活動に取り組んでいます。

本レポートでは山梨学院大学の先生方と、その研究内容を紹介していきます。中小企業のみならずが肌で感じとったビジネスの現場の空気と、気鋭の研究者たちが取り組むアカデミズムの最前線が出遭うこのレポートが、新たなビジネスの「創発(emergence)」の場となることを期待いたします。

<第19回>



「組織と労働」
～国際比較の経験を活かして～

野原 博淳 先生

(現代ビジネス学部 特任教授)

《要点》

- ・ フランスの国立研究所や大学に30年間在籍し、技術革新にまつわる「組織と労働」について研究。
- ・ 技術者の育成や管理方法、イノベーションにおける技術者の役割、知識集積と地域経済などのテーマで日本やフランスをはじめとしたEU諸国との国際比較研究を実施。
- ・ 日本とフランスでは、組織や労働に関して様々な違いがみられるが、具体例として「技術者の育成方法」があげられる。
- ・ 技術者の育成に課題をもつ企業には、私の研究で培ってきた知識・経験を活かし、その会社の体制にあった育成方法について、助言や提案をしていけると思う。
- ・ 山梨のワインや宝飾産業は「地域クラスター」を形成しつつあり、これまでの私の研究内容と類似する点がみられ、地元企業と連携して研究していきたいと考えている。
- ・ 組織や技術者等に関して研究課題をもつ企業や団体がありましたら、共同して取り組んでいけるとお思いますのでご相談ください。

■フランスではどのような研究をされてきましたか？

私は昨年まで、約30年間フランスの国立研究所や大学に在籍し、技術革新（イノベーション）にまつわる「組織と労働」について研究をしていました。

たとえば、「技術者」ひとつとっても、技術者の育成や管理方法、社会における技術者の役割、イノベーションと技術者の役割といった様々な事柄において、国ごとの違いが見られます。こうした事柄について、企業への訪問や聞き取り等のフィールド調査を実施し、日本やフランスをはじめとしたEU諸国との比較研究をしてきました。

■日本とフランスで具体的にどのような違いがありますか？

日本とフランスでは、組織や労働に関して様々な違いがありますが、たとえば、「技術者の育成方法」が大きく異なります。

日本では、入社してすぐの技術者に重要な仕事を任せることは少なく、徐々に経験を積み重ねて、技術者を育成する傾向があります。

一方、フランスの技術者は、入社当初から重要な仕事を任せられます。また、人を指揮・指導する立場で入社することも多く、人的管理の技術についても入社当初から求められます。

このため、学校教育の段階から技術者として必要な知識・能力に加え、人の指導・管理方法を学びます。また、大学の修士課程では、5～8か月間のプロジェクト運営や短期のミッションを通じて企業で実際に働くことを経験します。この長期実習は必修の単位であって、これに合格しなければ卒業できません。それと同時に、企業にとっては、優秀な若者を選別・採用するための機会になるのです。

フランスの技術者は、若いうちから責任のある仕事を積極的に求める傾向にあります。また、企業も自ら率先して仕事を求める人には相応の仕事を与える風土があります。

会社運営上のリスクは高まると思いますが、働く技術者の能力や可能性を最大限に引き出していくためには、こうした試みも一考の余地があると思います。

また、技術者をどのように育成していくかは、多くの企業が抱える課題の一つだと思います。私は、日本やフランス・ドイツの様々な企業を調査し、技術者の育成方法について研究してきました。こうして培ってきた知識・経験を活かして、その会社にあった技術者の育成方法について、助言や提案をしていけると思います。

■日本で今後研究していきたいことはありますか？

ワインや宝飾をはじめとした山梨の産業は、これまで国際比較の研究で携わってきた内容と類似する点が見られることから、今後研究していきたいと考えています。

私は、研究をしてきたなかで、産業はクラスター（集積）化することが重要だと考えています。たとえば、ある地域に一つの有力な産業があると、その周りに関連する企業やサポートシステムが構築され、地域全体が一つの集合体として機能するようになります。これは産業の「エコシステム」と言われるものです。こうして産業がクラスター化すると、企業間でお互いが競争しつつ、協力し合う関係が生まれ、活発な産業活動が行われるようになります。

また、産業のクラスター化は、別の産業にも効果が波及し、新たなイノベーションを創出するなど、相乗効果を発揮することもあります。

山梨はワイン産業や宝飾産業の企業が多数あり、産業のクラスター化が見られます。こうした企業と共同して研究し、私のこれまでの研究知識を活かした提案や助言を行うことで、山梨の地域経済のさらなる活性化に向けた貢献をしていくことができると思います。

また、研究をする際は、本学や他大学の先生を数名集めてプロジェクトを立ち上げて共同研究できればおもしろい事ができると思います。

私は、日本に帰国したばかりで山梨の企業とつながりがほとんどありません。今後はいろいろな形で連携を模索していくことで、地元企業とのつながりを深めていきたいと思っています。

■研究していくうえで、企業に対し何か期待することはありますか？

これまでに日本の企業に度々調査に伺ったことがありますが、研究者が希望するような良質な情報を提供してもらえないことが多く、また、企業の内部や実際の組織については、ほとん

ど見せていただくことはできませんでした。

これに対して、フランスをはじめとするヨーロッパで調査に伺うと、研究者の意図をはっきりと伝達すれば、企業の対応は丁寧で、内部まで非常によく見せてもらえます。一般的に、日本の企業は研究者に対してガードが堅いという印象を持っています。確かに、社内の機密情報をはじめとした様々な問題等があったことだとは思いますが、もう少しオープンにしていたければ、研究者と企業の信頼関係が増し、より共同関係を築きやすいと思います。

■企業に対し何か提案できることはありますか？

私は、日本やフランスをはじめとするヨーロッパの国々の組織や技術者に関する研究に携わってきました。組織や技術者等に課題を持つ企業に対しては、研究で培ってきた知識や経験を活かし助言や提案をしていけると思います。また、海外市場調査のお手伝いや現地の情報提供等も可能だと思います。組織や技術者等に関する研究課題のある企業や団体については、共同して研究し、課題解決に向けて連携して取り組んでいくことができると思います。私の研究に興味のある企業や団体がありましたらご相談ください。

本レポートに関するお問い合わせがございましたら、

山梨中央銀行 営業統括部 公務・地方創生室

TEL: 055-224-1091 まで、お気軽にご連絡・ご相談ください。